

令和4年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

1年

教科	指導上の課題の分析	授業改善の具体的な方策	評価（成果と課題）
国語	<p>○知識・技能、思考・判断・表現全般に概ねよく達成している(平均90%以上)が、平仮名の定着、文章の読み取りなどに個人差が見られる。</p>	<p>○読みの手順を踏むことで言葉のまとまりを意識して、文章として捉えられるようにする。</p> <p>○言葉遊びを通して、語彙を増やすと共に楽しんで書く機会を設け、文字や短文を書く力の定着を図る。</p> <p>○様々な音読の機会を通して、文章を正確に、また表現を工夫して読めるようにする。</p> <p>○音読リレーや簡単な群読、距離をとっての対話など学習形態を工夫し、楽しんで話したり書いたりできるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の字数が増え、取得状況に開きが見られる。多くの児童が既習漢字を正しく書くことができている。 ・話す、聞く活動については、クラス間で実態の違いがあるものの、自分の考えを発表することが苦手な児童は各クラス半数程度いる。
算数	<p>○どの単元においても学習内容理解に対する到達度は70%となっている。また、文章題を解決する力に、個人差が顕著である。</p>	<p>○文章題でキーワード等の下線等を引き、問われている内容を明確にする。</p> <p>○学習課題について思考する時間の確保や友達との考えの共有、文章題への取り組みなど、思考する習慣を身に付けられるようにする。</p> <p>○内容を明確にすることで、問題の文意を捉えることができるようにする。</p> <p>○文章題を自作することで、既習の内容を定着できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「たし算の筆算」や「ひき算の筆算」の到達度の平均が他の単元の平均よりも低くなっている。 ・「長さのたんい」では、手指の巧緻性の個人差が大きく、正確に測定することに苦慮している児童がいる。

生活	○植物や生物観察には、意欲的に取り組むが、観察したことを的確に絵や文章で表現する力がまだ十分ではない児童がいる。	○植物なら葉の形、色、大きさ、手触りなどの観点を示し、観察する時間を確保することで、細かい点に気付き、丁寧に記録できるようにする。 ○気付きを共有、可視化することで、観察の仕方の幅を広げようにする。	○観察や探検などが多いため、児童は楽しく授業に参加できる。一方で、自分の願いや思いを言葉にできない児童が見受けられる。
図工	○絵画、造形共に興味・関心をもって活動に取り組むが、発想の広がりや、技能面での個人差が大きい。	○題材についての話し合いや見本の提示等、課題に対する見通しをもたせる。 ○必要な技能については、練習をしてから取り組ませる。 ○活動中に良い発想や工夫、技能を紹介し、発想の幅をもたせるようにする。 ○自分の発想を大切にしつつ、様々な表現の仕方を知り採り入れることで、発想や活動の幅を広げることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の描きたい、作りたいものを楽しんで作ることができている。 ・テーマがないと作品作りに取り組めない児童や、ねらいとなる技法を活かすことが難しい児童もいる。
体育	○体育の授業を意欲的に取り組める児童が多いが、体の操作にぎこちなさが見られる児童もいる。	○リズムに合わせるなど様々な体の動きを繰り返し行うことで、リズム感と体を操作する力を養う。 ○活動のねらいと学習の流れや動きのポイントなどを示すことで、意識して活動に取り組めるようにする。 ○様々な運動経験を重ねることで、体の操作がスムーズにできるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きで意欲的に活動へ取り組める児童が多い。 ・友達のよかったところや自分が上手くできたときの体の動かし方などを言葉にして相手に伝えることが難しい様子がある。 ・ゲームのルールを理解し、友達と話し合っって作戦を立てる技能にも個人差がある。